

全国から注目を集める「千里ニュータウン」の試み

ひがしまち街角広場&千里・住まいの学校(千里ニュータウン)



ひがしまち街角広場

「ひがしまち街角広場」は、老若男女を問わず気軽に集える場所。平日の昼間でも飲み物や軽食を片手に談笑する多くの住民で賑わっている。広場の壁面を利用して絵や写真を飾ることで、芸術活動を行う色々なサークル活動も始まるきっかけにもなっているという



「ひがしまち街角広場」の運営は、地域の住民や主婦たちによるボランティアで成り立っている。「当番は決めていません。手が空いた人がやってきて手伝います。もし人手が足りなくなっても、お客さんが手伝ってくれますからね(笑)」と赤井直氏



地域コミュニティの活性

日本最初の大規模ニュータウンである「千里ニュータウン」では、現在、住民の高齢化や建物の老朽化も進むなど、さまざまな問題が起きているという。そうした問題を憂い、地元を愛する有志が集って、街の再生を図ろうと2001年にオープンしたのが「ひがしまち街角広場」だ。

北大阪急行「千里中央」駅の東部、商業施設が集まった「近隣センター」の空き店舗を利用した交流の場「ひがしまち街角広場」は、様々な世代の賑やかな声で溢れている。一際元気な顔を見せているのが代表の赤井直氏だ。「顔も名前も知らなかった人たちが、気軽に知り合える場所づくりのために2001年にオープンさせました。いつか誰も来なくなるんじゃないかと思っていたのですが、訪れる人の数がどんどん増えています」と赤井氏。この広場では、子供や男性の利用者も多く、世代を超えた笑顔の絶えない



千里ニュータウンには、四季折々に楽しめる豊かな自然と子供やペットたちが走り回のに十分な大きさの公園がある

ひがしまち街角広場

〒560-0082 豊中市新千里東町3
新千里東町近隣センター内
TEL: 06-6831-9701
E-mail: Senrigood@aol.com

千里・住まいの学校

〒560-0082 豊中市新千里東町3
新千里東町近隣センター内
TEL: 06-6871-2710
E-mail: yam-chan@hkg.odn.ne.jp



集合住宅には高さや新旧のデザインの違いもあり、それぞれに表情があることが分かる

千里・住まいの学校



「千里・住まいの学校」のメンバーは、千里に愛着を持つ一級建築士、大学の教員、自治会活動や公民館の分館活動に熱心に取り組んできた人たち等と多彩な顔ぶれが揃い、現在は約20人にまで増えている(左:山本茂氏、右:太田博一氏)



お二人に事務所近辺を案内していただいた。"団地は画一的だ"と言われるが、千里ニュータウンは、

交流があるという。
取材中、広場2階に事務所を構える『千里・住まいの学校』代表の山本茂氏と副代表の太田博一氏に出会った。同事務所は2004年秋に住民・専門家・大学・事業者が集まり"千里の人々が安心して、楽しく住み続けられるように"と設立されたという。「初めは高齢者が抱える住まいの問題に 대응することを目的に設立し、その後、調査・研究や住まいづくりのコーディネートなども手がけるようになっていった。その後、06年には内閣府都市再生本部の『全国都市再生モデル調査』事業に採択され、同年暮れには特定非営利活動法人になりました」と山本氏は説明する。

それぞれの建物や広場にさまざまな工夫が見られる。じっくり観察しながら歩いてみると、老若男女が楽しめる豊かな自然、ボランティアの手で蘇った竹林など、「レトロなニュータウン」として成熟した街であり、年月の経過のなかで豊かな環境が形成されていることが分かる。「現状のまちの良さを再確認し、それを、新しいまちづくりに反映できるようにすることが目的のまちあるきを定期的にしています」と太田氏。だが、このような街並みも集合住宅の建替えによって、大きく変化しようとしている。「単に建替えるのではなく、計画的につくられた街の良さを残しつつ、より魅力ある街へ再生できるよう、地域の方々と力を合わせたい」と語る山本氏たちの活動に今後も期待したい。

(文責・CEL編集室)

CEL



高齢者の課題である、住み続けと住み替えのニーズに応えるため、千里ニュータウンとその周辺の高齢者施設・住宅のデータベース整備や各種相談ツールを作成し『セミナー&キャラバン相談会』など、継続的なサポート・提案を実施している